

鳥取大学大学院工学研究科教員選考規則

(趣旨)

第1条 鳥取大学大学院工学研究科における教員の選考は、鳥取大学教員選考基準（昭和31年鳥取大学規則第7号）によるもののほかこの規則の定めるところによる。

(教員の任用)

第2条 専攻に教員を任用するとき、及び博士後期課程担当教員資格認定をするときは、当該専攻長は、当該候補者について次に掲げる審査書類を添付して工学研究科長（以下「研究科長」という。）に申請する。

一 教員資格審査申請書（様式イ）

二 組織表（様式ロ）

三 調査書

- ・ 履歴書（様式ハ－1）
- ・ 教育歴（様式ハ－2）
- ・ 研究歴（様式ハ－3）
- ・ その他の活動歴（様式ハ－4）
- ・ 着任後の抱負（様式ハ－5）
- ・ 研究業績リスト（著書・論文等，特許・実用新案）（様式ハ－6－1），又は研究業績リスト（著書・論文等，特許・実用新案，作品）（様式ハ－6－2）

四 その他審査に必要な書類（公募内容，論文コピー等）

(第一教員選考委員会)

第3条 工学研究科に第一教員選考委員会（以下「第一委員会」という。）を置く。

2 第一委員会に関し，必要な事項は別に定める。

3 研究科長は，前条に基づく申請があったときは，当該候補者の教員任用の適否及び博士後期課程担当資格に関わる審査を，速やかに第一委員会に付託するものとする。

4 第一委員会は，前項の付託を受けたときは，速やかに資格審査を行い，審査結果を文書をもって研究科長に報告するものとする。

5 第一委員会が当該候補者の資格について適当と判断したときは，研究科長は審査結果を研究科委員会に報告するものとする。

(第二教員選考委員会)

第4条 前条第5項の報告に基づき，研究科委員会が必要と認めたときは，第二教員選考委員会（以下「第二委員会」という。）を置く。

2 第二委員会に関し，必要な事項は別に定める。

3 第二委員会は、資格審査を行い、審査結果を文書をもって研究科委員会に報告するものとする。

4 研究科委員会は、第二委員会の審査結果を参考にして、候補者の任用の可否及び博士後期課程担当資格について審議し、投票により決定する。

(再審査の申請)

第5条 第一委員会が当該候補者の資格について適格でないと判断したときは、研究科長は当該専攻長にその旨通知し、再検討をさせるものとする。

2 前項の通知を受けた専攻長は、検討の結果、なおその候補者の任用を必要とするときは、再度、資格審査を研究科長に申請することができる。

(助教の任用)

第6条 助教の任用については、前条までの規定にかかわらず、第一委員会の審査結果を参考にして、研究科委員会において審議の上決定するものとする。

(候補者の提示要求)

第7条 教員の欠員を補充する専攻で、適当な候補者を有しないときには、当該専攻長は研究科長を経て第一委員会に候補者の提示を求めることができる。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、教員の任用等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成13年4月1日から施行する。

2 鳥取大学工学部教官選考規程（昭和49年鳥取大学工学部規則第6号）、鳥取大学大学院工学研究科教官選考規程（平成9年鳥取大学工学部規則第2号）及び鳥取大学大学院工学研究科博士後期課程担当教官資格審査規程（平成9年鳥取大学工学部規則第3号）は、廃止する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年1月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

(様式イ)

教 員 資 格 審 査 申 請 書

平成 年 月 日

工 学 研 究 科 長 殿

専攻長 印

鳥取大学大学院工学研究科教員選考規則第2条の規定に基づき、別紙候補者の第一次資格審査を申請します。

(様式ロ)

組 織 表

専 攻	講 座	氏 名	著 書 査読付論文 の 数
			計 ○編 (内訳) 著書 ○編 学術論文 ○編 国際会議論文 ○編

(任 用)

職 名	(採用・昇任・配置換) 予定年月日

(資格審査)

資 格	教育研究分野	担当授業科目名	前審査の状況

※ 任用のみ・資格審査のみの場合は、該当しない欄を削除（または斜線）すること

※ 資格は、次のとおり記載のこと

1. 博士後期課程の研究指導及び講義を担当する教授・准教授の資格審査は、「研究指導教授・研究指導准教授」と記載すること。
2. 博士後期課程の研究指導補助及び講義を担当する准教授の資格審査は、「研究指導補助准教授」と記載すること。
3. 博士後期課程の研究指導補助及び講義を担当する講師の資格審査は、「研究指導補助講師」と記載すること。

(様式ハ－1)

【 調 査 書 】 履 歴 書

作成年月日：2000年00月00日

現職（例：00大学00学部 准教授）

（例：000株式会社技術研究所00部00研究室長）

氏名（例：鳥取 太郎）

生年月日（年齢）

性別

写真貼付
（電子画像可）
縦4cm×横3cm

現住所（〒0000-0000 都道府県名から記載，棟番号，室番号まで記載）

1. 学歴

（例） 0000年00月 00大学00学部00学科入学
0000年00月 00大学00学部00学科卒業
0000年00月 00大学大学院00研究科00課程00専攻入学
0000年00月 00大学大学院00研究科00課程00専攻修了
0000年00月 00大学大学院00研究科00課程00専攻入学
0000年00月 00大学大学院00研究科00課程00専攻修了

2. 職歴

（例） 0000年00月 00大学助手00学部00学科
0000年00月 00省00研究所00部研究官
0000年00月 00株式会社技術研究所00部00研究室研究員
0000年00月 00大学准教授00学部00学科
現在に至る

3. 賞罰

（受賞件名，年月）

4. 資格

技術士（00部門），登録年月 0000年00月

(様式ハ－ 2)

教 育 歴

1) ○○大学○○学部 (○○○○年○○月～○○○○年○○月)

講義科目名	対象学部学科学年	学 期	期 間	単独・分担
基礎○○学	○○学部○年生	○期	○○○○年度～○○○○年度	単独

2) ○○大学○○学部 (○○○○年○○月～○○○○年○○月)

一般教育科目または全学共通科目

講義科目名	対象学部学科学年	学 期	期 間	単独・分担
基礎○○学	○○学部○学科○年生	○期	○○○○年度～○○○○年度	単独

専門科目

講義科目名	対象学部学科学年	学 期	期 間	単独・分担
応用○○学	○○学部○学科○年生	○期	○○○○年度～○○○○年度	単独
○○学実験	○○学部○学科○年生	○期	○○○○年度～○○○○年度	分担

大学院博士前期課程

講義科目名	対象学部学科学年	学 期	期 間	単独・分担
○○学特論	○研究科○専攻○年生	○期	○○○○年度～○○○○年度	単独

大学院博士後期課程

講義科目名	対象学部学科学年	学 期	期 間	単独・分担
○○学特論	○研究科○専攻○年生	○期	○○○○年度～○○○○年度	単独

3) 非常勤講師

講義科目名	対象教育機関学部学科学年	学 期	期 間	単独・分担
○○学特論	○○大学○学部○学科○年生	○期	○○○○年度～○○○○年度	単独

注 1) 担当科目, 学年, 担当期間を詳細に記載する。

注 2) TA, 社内教育なども記載してよい。

(様式ハ－ 3)

研 究 歴

○研究業績

1. 著書 ○編 (別紙研究業績リストのとおり)
2. 論文
(査読付論文)
 - 学術誌 ○編 (別紙研究業績リストのとおり)
 - 国際会議論文 ○編 (別紙研究業績リストのとおり)
 - (研究報告) ○編 (別紙研究業績リストのとおり)
 - (総説・解説) ○編 (別紙研究業績リストのとおり)
3. 学位論文 (修士論文, 博士論文)
修士 (○○学): 「論文名 _____」, 授与大学名, ○○○○年○○月取得
博士 (○○学): 「論文名 _____」, 授与大学名, ○○○○年○○月取得
4. 特許・実用新案
(登録) ○件 (別紙研究業績リストのとおり)
(出願) ○件 (別紙研究業績リストのとおり)
5. 作品 ○件 (別紙研究業績リストのとおり)

注 1) 1～4の研究業績の記載方法については、様式ハ－6－1の「記載方法について」を参照すること。

注 2) 5の研究業績の記載方法については、様式ハ－6－2の「記載方法について」を参照すること。

○これまでの主要な研究概要

(2000字程度)

※注 1) 研究課題を大別してそれぞれについて簡潔に記載する。

※注 2) 研究業績リストにあげた学術論文, 特許等を適切に引用し, かつ引用番号を明記して記述する。

(様式ハ－４)

その他の活動歴

○外部資金の導入

(科学研究費補助金・各種助成金の取得状況，共同研究・受託研究の実施状況など。代表・分担の別を明記)

科学研究費補助金

1. ○○○○年度 ○○研究 「課題名」 (代表)

各種助成金

1. ○○○○年度○○財団助成金 「課題名」 (代表)

2. ○○○○年度○○事業団助成金 「課題名」 (分担)

共同研究

1. ○○○○年度 区分 A 「課題名」 (代表)

2. ○○○○年度 区分 B 「課題名」 (分担)

受託研究

1. ○○○○年度 委託者 「課題名」 (代表)

○所属学会および学会活動

(学会名，会員種別，会員資格取得年，学会役員など)

1. ○○学会 ○○会員 ○○○○年～

2. ○○学会 ○○委員会委員長 ○○○○年○○月～

○社会における活動

1. ○○審議会 委員 ○○○○年○○月～○○○○年○○月

2. ○○委員会 委員長 ○○○○年○○月～○○○○年○○月

3. ○○ボランティア活動に参加 ○○○○年○○月～○○○○年○○月

4. フォーラムの主催など ○○○○年○○月～○○○○年○○月

○招待講演・客員教授

1. 招待講演 ○○○○年○○月 講演題目：○○学会○○会議基調講演

2. 客員教授 ○○○○年○○月～○○○○年○○月

○その他の特記事項

(様式ハ－５)

着任後の抱負

(2000字程度)

(教育に対する抱負)

(研究に対する抱負)

(社会貢献に対する抱負)

(大学における管理・運営に対する抱負)

研究業績リスト (著書・論文等)

氏名：

著書・論文等の名称	単著 共著 の別	発行・発表年	発行所(学会名・会議名), 発表雑誌, 巻号, ページ	概 要
I 著書 1 2 ・ ・ II 論文 (査読付論文) ・学術誌 1 2 ・ ・ ・ その他 編 ・ 国際会議論文 1 2 ・ ・ ・ その他 編 (研究報告) 1 2 ・ ・ ・ その他 編 (総説・解説) 1 2 ・ ・ ・ その他 編				著者名： 担当： 著者名： 担当： 著者名： 担当： 著者名： 担当： 著者名： 担当： 著者名： 担当： 著者名： 担当： 著者名： 担当：
学 位 論 文 名		取得年月	学位・授与大学名	概 要
● 学位論文 1 2		****年**月 ****年**月	修士(〇〇学)(〇〇大学) 博士(〇〇学)(〇〇大学)	

研究業績リスト（特許・実用新案）

	特許・実用新案の名称	登録・出願番号	出願年月日	発明者名	特許権者名
	(登録)				
1		実用新案登録第**号	1999/10/ 1	鳥取太郎	〇〇工業（株）
2		特許第〇〇号	2000/10/ 1	鳥取太郎	〇〇工業（株）
3					
4					
・					
・					
	(出願)				
1					
2					
3					
4					
・					
・					

「研究業績リスト(著書・論文等)」の記載方法について

1. この書類は、担当授業科目等に関する主要な著書、論文等（発行又は発表が予定されているものを含む。）についてのみ記載すること。
 2. 「著書・論文等の名称」欄には、「著書」「論文」の順に、それぞれ年順に記載すること。
 3. 「査読付論文」については、最近のものを中心に記載すること。（最近5年間の業績を必ず含めること。）最大50編まで記載し、書ききれない場合は、「その他 ○編」と記入すること。「研究報告」「総説解説」については主要なもののみ記載し、それぞれ「その他○編」と記入すること。
 4. 「ページ」の書き方は、「pp.○○～○○」又は「p○」とする。
 5. 共著の場合は、「概要」欄に、著作者全員の氏名（フルネーム）を当該著書・論文等に記載された順に記入（本人氏名に下線）すること。なお、英文論文の場合の著者名はローマ字記入とする。
 6. 「学位論文」は最後に記載すること。
 7. 「概要」欄には、著書・論文等の概要について、各著書・論文毎に200字以内で記入のこと。共著の場合は、著者名の他、担当部分についても明記すること。
 8. 「担当」の書き方の例
担当：構想，計算，まとめ
担当：実験，解説，考察
担当：計画，まとめ
- ※ 担当部分を明確にできないときは、その理由を明記すること。 例) 共同研究につき本人担当部分抽出不可

「研究業績リスト(特許・実用新案)」の記載方法について

1. 主要な登録分を中心に最大30件まで記載し、書ききれない場合は、「その他 ○件」と記入すること。

研究業績リスト (著書・論文等)

氏名：

著書・論文等の名称	単著 共著 の別	発行・発表年	発行所(学会名・会議名), 発表雑誌, 巻号, ページ	概 要
I 著書 1 2 ・ ・ II 論文 (査読付論文) ・学術誌 1 2 ・ ・ ・ その他 編 ・ 国際会議論文 1 2 ・ ・ ・ その他 編 (研究報告) 1 2 ・ ・ ・ その他 編 (総説・解説) 1 2 ・ ・ ・ その他 編				著者名： 担当： 著者名： 担当： 著者名： 担当： 著者名： 担当： 著者名： 担当： 著者名： 担当： 著者名： 担当：
学 位 論 文 名		取得年月	学位・授与大学名	概 要
● 学位論文 1 2		****年**月 ****年**月	修士(〇〇学)(〇〇大学) 博士(〇〇学)(〇〇大学)	

研究業績リスト（特許・実用新案）

	特許・実用新案の名称	登録・出願番号	出願年月日	発明者名	特許権者名
1 2 3 4 ・ ・	(登録)	実用新案登録第**号 特許第〇〇号	1999/10/ 1 2000/10/ 1	鳥取太郎 鳥取太郎	〇〇工業 (株) 〇〇工業 (株)
1 2 3 4 ・ ・	(出願)				

研究業績リスト（作品）

	作品の名称	発表年月日	作品の発表 ・設置場所	全発表者・全制作者	概 要
1	米子市〇〇記念会館	1999/10/ 1	米子市	鳥大太郎, 米子次郎	プロジェクトでの役割： 基本設計 概要：・・・・・・・・
2	鳥取県〇〇運動公園	2001/10/ 1	鳥取市	鳥大太郎	プロジェクトでの役割： 基本設計 概要：・・・・・・・・
3 ・ ・					

「研究業績リスト(著書・論文等)」の記載方法について

1. この書類は、担当授業科目等に関する主要な著書、論文等（発行又は発表が予定されているものを含む。）についてのみ記載すること。
 2. 「著書・論文等の名称」欄には、「著書」「論文」の順に、それぞれ年順に記載すること。
 3. 「査読付論文」については、最近のものを中心に記載すること。（最近5年間の業績を必ず含めること。）最大50編まで記載し、書ききれない場合は、「その他 ○編」と記入すること。「研究報告」「総説解説」については主要なもののみ記載し、それぞれ「その他○編」と記入すること。
 4. 「ページ」の書き方は、「pp.〇〇～〇〇」又は「p〇」とする。
 5. 共著の場合は、「概要」欄に、著作者全員の氏名（フルネーム）を当該著書・論文等に記載された順に記入（本人氏名に下線）すること。なお、英文論文の場合の著者名はローマ字記入とする。
 6. 「学位論文」は最後に記載すること。
 7. 「概要」欄には、著書・論文等の概要について、各著書・論文毎に200字以内で記入のこと。共著の場合は、著者名の他、担当部分についても明記すること。
 8. 「担当」の書き方の例
担当：構想，計算，まとめ
担当：実験，解説，考察
担当：計画，まとめ
- ※ 担当部分を明確にできないときは、その理由を明記すること。 例) 共同研究につき本人担当部分抽出不可

「研究業績リスト(特許・実用新案)」の記載方法について

1. 主要な登録分を中心に最大30件まで記載し、書ききれない場合は、「その他 ○件」と記入すること。

「研究業績リスト(作品)」の記載方法について

1. 共同発表あるいは共同制作の場合は、発表者あるいは制作者全員の氏名（フルネーム）を記入（本人氏名に下線）すること。
2. 「概要」欄では、その作品の概要について、各作品毎に200字以内で記入するとともに、プロジェクトでの役割を明記すること。

教員公募に関する申し合わせ

平成15年2月3日学科長会議承認

平成19年4月1日一部改正

平成20年1月1日一部改正

平成20年4月1日一部改正

1. 教員公募は、研究科長名で行うものとする。
2. 教員公募を行おうとする専攻は、研究科長へ申し出をするものとする。
3. 研究科長は、公募の内容について、第一教員選考委員会へ適否を付託するものとする。
4. 公募の事務手続きは、当該専攻において、研究科長の了承を得た後行うものとする。
5. 公募は、別紙書式によるものとする。

(別紙)

鳥取大学大学院工学研究科教員公募

1. 募集人員 例：教授 1名，教授または准教授 1名
 2. 所属 例：情報エレクトロニクス専攻 知識情報工学講座
 3. 専門分野 例：情報工学
 4. 担当授業科目 (大学院) ○○○○特論
(学部) ○○○○工学，△△学及び数学，化学，物理学，生物学，地学等（前記5科目から該当のものを選択）の基礎科目
 5. 応募資格 注：採用条件に応じて規定する。
教授，准教授，助教によっても資格要件は異なる。
例示項目 1) 例：博士の学位を有すること
2) 専門分野における研究業績
例：上記の専門分野に関し，十分な研究業績を有し，教育及び大学・専攻運営にも熱意があること
3) その他，教育・研究分野で特筆すべきことなど
例：計測・制御分野に研究実績があり，その計測技術を有していること
 6. 着任時期 例：2000年○月1日（予定）
 7. 提出書類
①履歴書（様式1）
②教育歴（様式2）
③研究歴（様式3）
④その他の活動歴（様式4）
⑤着任後の抱負（様式5）
⑥研究業績リスト（様式6-1，6-2）
⑦所見を伺える方の照会先（2名）または推薦状（2通）（様式7）
⑧主要な査読付学術論文の別刷り（コピー可）：○編程度
 8. 応募締切 2000年○月○日（○曜日）必着
 9. 選考方法 例：専攻内選考（1次：書類審査，2次：面接（面接にプレゼンテーションを含む場合はその旨記載））及び研究科内選考
 10. 問い合わせ先・送付先 〒680-8552 鳥取市湖山町南4丁目101
鳥取大学大学院工学研究科○○専攻○○コース長
○○○○
電話：0857-31-****，FAX：0857-31-****
E-mail：
- （封筒表面に「教員応募書類在中」と朱書し，簡易書留郵便又は宅配便にて送付のこと。なお，原則として提出書類は返却しませんのでご了承ください）
11. 公募の詳細については，必ず以下のホームページ参照すること
<http://akebia.jim.tottori-u.ac.jp/info/koubo.html>

(様式1)

履 歴 書

作成年月日：2000年00月00日

現職（例：00大学00学部 准教授）

（例：000株式会社技術研究所00部00研究室長）

氏名（例：鳥取 太郎）

生年月日（年齢）

性別

写真貼付
(電子画像可)
縦4cm×横3cm

現住所（〒0000-0000 都道府県名から記載，棟番号，室番号まで記載）

1. 学歴

(例) 0000年00月 00大学00学部00学科入学
0000年00月 00大学00学部00学科卒業
0000年00月 00大学大学院00研究科00課程00専攻入学
0000年00月 00大学大学院00研究科00課程00専攻修了
0000年00月 00大学大学院00研究科00課程00専攻入学
0000年00月 00大学大学院00研究科00課程00専攻修了

2. 職歴

(例) 0000年00月 00大学助手00学部00学科
0000年00月 00省00研究所00部研究官
0000年00月 00株式会社技術研究所00部00研究室研究員
0000年00月 00大学准教授00学部00学科
現在に至る

3. 賞罰

(受賞件名，年月)

4. 資格

技術士(00部門)，登録年月 0000年00月

※ 注) ワープロ作成可，署名のこと

(様式 2)

教 育 歴

1) ○○大学○○学部 (○○○○年○○月～○○○○年○○月)

講義科目名	対象学部学科学年	学 期	期 間	単独・分担
基礎○○学	○○学部○年生	○期	○○○○年度～○○○○年度	単独

2) ○○大学○○学部 (○○○○年○○月～○○○○年○○月)

一般教育科目または全学共通科目

講義科目名	対象学部学科学年	学 期	期 間	単独・分担
基礎○○学	○○学部○学科○年生	○期	○○○○年度～○○○○年度	単独

専門科目

講義科目名	対象学部学科学年	学 期	期 間	単独・分担
応用○○学	○○学部○学科○年生	○期	○○○○年度～○○○○年度	単独
○○学実験	○○学部○学科○年生	○期	○○○○年度～○○○○年度	分担

大学院博士前期課程

講義科目名	対象学部学科学年	学 期	期 間	単独・分担
○○学特論	○研究科○専攻○年生	○期	○○○○年度～○○○○年度	単独

大学院博士後期課程

講義科目名	対象学部学科学年	学 期	期 間	単独・分担
○○学特論	○研究科○専攻○年生	○期	○○○○年度～○○○○年度	単独

3) 非常勤講師

講義科目名	対象教育機関学部学科学年	学 期	期 間	単独・分担
○○学特論	○○大学○学部○学科○年生	○期	○○○○年度～○○○○年度	単独

注 1) 担当科目, 学年, 担当期間を詳細に記載する。

注 2) TA, 社内教育なども記載してよい。

(様式 3)

研 究 歴

○研究業績

1. 著書 ○編 (別紙研究業績リストのとおり)
2. 論文
(査読付論文)
 - 学術誌 ○編 (別紙研究業績リストのとおり)
 - 国際会議論文 ○編 (別紙研究業績リストのとおり)
 - (研究報告) ○編 (別紙研究業績リストのとおり)
 - (総説・解説) ○編 (別紙研究業績リストのとおり)
3. 学位論文 (修士論文, 博士論文)
 - 修士 (○○学): 「論文名 _____」, 授与大学名, ○○○○年○○月取得
 - 博士 (○○学): 「論文名 _____」, 授与大学名, ○○○○年○○月取得
4. 特許・実用新案
 - (登録) ○件 (別紙研究業績リストのとおり)
 - (出願) ○件 (別紙研究業績リストのとおり)
5. 作品 ○件 (別紙研究業績リストのとおり)

注 1) 1～4の研究業績の記載方法については、様式 6－1の「記載方法について」を参照すること。

注 2) 5の研究業績の記載方法については、様式 6－2の「記載方法について」を参照すること。

○これまでの主要な研究概要

(2000字程度)

※注 1) 研究課題を大別してそれぞれについて簡潔に記載する。

※注 2) 研究業績リストにあげた学術論文, 特許等を適切に引用し, かつ引用番号を明記して記述する。

(様式4)

その他の活動歴

○外部資金の導入

(科学研究費補助金・各種助成金の取得状況，共同研究・受託研究の実施状況など。代表・分担の別を明記)

科学研究費補助金

1. ○○○○年度 ○○研究 「課題名」 (代表)

各種助成金

1. ○○○○年度○○財団助成金 「課題名」 (代表)

2. ○○○○年度○○事業団助成金 「課題名」 (分担)

共同研究

1. ○○○○年度 区分A 「課題名」 (代表)

2. ○○○○年度 区分B 「課題名」 (分担)

受託研究

1. ○○○○年度 委託者 「課題名」 (代表)

○所属学会および学会活動

(学会名，会員種別，会員資格取得年，学会役員など)

1. ○○学会 ○○会員 ○○○○年～

2. ○○学会 ○○委員会委員長 ○○○○年○○月～

○社会における活動

1. ○○審議会 委員 ○○○○年○○月～○○○○年○○月

2. ○○委員会 委員長 ○○○○年○○月～○○○○年○○月

3. ○○ボランティア活動に参加 ○○○○年○○月～○○○○年○○月

4. フォーラムの主催など ○○○○年○○月～○○○○年○○月

○招待講演・客員教授

1. 招待講演 ○○○○年○○月 講演題目：○○学会○○会議基調講演

2. 客員教授 ○○○○年○○月～○○○○年○○月

○その他の特記事項

(様式 5)

着任後の抱負

(2000 字程度)

(教育に対する抱負)

(研究に対する抱負)

(社会貢献に対する抱負)

(大学における管理・運営に対する抱負)

研究業績リスト (著書・論文等)

氏名：

著書・論文等の名称	単著 共著 の別	発行・発表年	発行所(学会名・会議名), 発表雑誌, 巻号, ページ	著者名
I 著書 1 2 ・ ・ II 論文 (査読付論文) ・学術誌 1 2 ・ ・ ・ その他 編 ・ 国際会議論文 1 2 ・ ・ ・ その他 編 (研究報告) 1 2 ・ ・ ・ その他 編 (総説・解説) 1 2 ・ ・ ・ その他 編				
学位論文名		取得年月	学位・授与大学名	概要
● 学位論文 1 2		****年**月 ****年**月	修士(〇〇学)(〇〇大学) 博士(〇〇学)(〇〇大学)	

研究業績リスト（特許・実用新案）

	特許・実用新案の名称	登録・出願番号	出願年月日	発明者名	特許権者名
	(登録)				
1		実用新案登録第**号	1999/10/ 1	鳥取太郎	〇〇工業（株）
2		特許第〇〇号	2000/10/ 1	鳥取太郎	〇〇工業（株）
3					
4					
・					
・					
	(出願)				
1					
2					
3					
4					
・					
・					

「研究業績リスト(著書・論文等)」の記載方法について

1. この様式を用いなくても、必要な事項が記載されていれば任意様式でも可とする。
2. この書類は、担当授業科目等に関する主要な著書、論文等（発行又は発表が予定されているものを含む。）についてのみ記載すること。
3. 「著書・論文等の名称」欄には、「著書」「論文」の順に、それぞれ年順に記載すること。
4. 「査読付論文」については、最近のものを中心に記載すること。（最近5年間の業績を必ず含めること。）最大50編まで記載し、書ききれない場合は、「その他 ○編」と記入すること。「研究報告」「総説解説」については主要なもののみ記載し、それぞれ「その他○編」と記入すること。
5. 「ページ」の書き方は、「pp.〇〇～〇〇」又は「p〇」とする。
6. 共著の場合は、「概要」欄に、著作者全員の氏名（フルネーム）を当該著書・論文等に記載された順に記入（本人氏名に下線）すること。なお、英文論文の場合の著者名はローマ字記入とする。
7. 「学位論文」は最後に記載すること。

「研究業績リスト(特許・実用新案)」の記載方法について

1. この様式を用いなくても、必要な事項が記載されていれば任意様式でも可とする。
2. 主要な登録分を中心に最大30件まで記載し、書ききれない場合は、「その他 ○件」と記入すること。

研究業績リスト (著書・論文等)

氏名：

著書・論文等の名称	単著 共著 の別	発行・発表年	発行所(学会名・会議名), 発表雑誌, 巻号, ページ	著者名
I 著書 1 2 ・ II 論文 (査読付論文) ・学術誌 1 2 ・ ・ その他 編 ・ 国際会議論文 1 2 ・ ・ その他 編 (研究報告) 1 2 ・ ・ その他 編 (総説・解説) 1 2 ・ ・ その他 編				
学位論文名		取得年月	学位・授与大学名	概要
● 学位論文 1 2		****年**月 ****年**月	○○学修士 (○○大学) ○○学博士 (○○大学)	

研究業績リスト（特許・実用新案）

	特許・実用新案の名称	登録・出願番号	出願年月日	発明者名	特許権者名
1 2 3 4 ・ ・	(登録)	実用新案登録第**号 特許第〇〇号	1999/10/ 1 2000/10/ 1	鳥取太郎 鳥取太郎	〇〇工業 (株) 〇〇工業 (株)
1 2 3 4 ・ ・	(出願)				

研究業績リスト（作品）

	作品の名称	発表年月日	作品の発表 ・設置場所	全発表者・全制作者	概 要
1	米子市〇〇記念会館	1999/10/ 1	米子市	鳥大太郎, 米子次郎	プロジェクトでの役割： 基本設計 概要：・・・・・・・・
2	鳥取県〇〇運動公園	2001/10/ 1	鳥取市	鳥大太郎	プロジェクトでの役割： 基本設計 概要：・・・・・・・・
3 ・ ・					

「研究業績リスト(著書・論文等)」の記載方法について

1. この様式を用いなくても、必要な事項が記載されていれば任意様式でも可とする。
2. この書類は、担当授業科目等に関する主要な著書、論文等（発行又は発表が予定されているものを含む。）についてのみ記載すること。
3. 「著書・論文等の名称」欄には、「著書」「論文」の順に、それぞれ年順に記載すること。
4. 「査読付論文」については、最近のものを中心に記載すること。（最近5年間の業績を必ず含めること。）最大50編まで記載し、書ききれない場合は、「その他 ○編」と記入すること。「研究報告」「総説解説」については主要なもののみ記載し、それぞれ「その他○編」と記入すること。
5. 「ページ」の書き方は、「pp.〇〇～〇〇」又は「p〇」とする。
6. 共著の場合は、「概要」欄に、著作者全員の氏名（フルネーム）を当該著書・論文等に記載された順に記入（本人氏名に下線）すること。なお、英文論文の場合の著者名はローマ字記入とする。
7. 「学位論文」は最後に記載すること。

「研究業績リスト(特許・実用新案)」の記載方法について

1. この様式を用いなくても、必要な事項が記載されていれば任意様式でも可とする。
2. 主要な登録分を中心に最大30件まで記載し、書ききれない場合は、「その他 ○件」と記入すること。

「研究業績リスト(作品)」の記載方法について

1. この様式を用いなくても、必要な事項が記載されていれば任意様式でも可とする。
2. 共同発表あるいは共同制作の場合は、発表者あるいは制作者全員の氏名（フルネーム）を記入（本人氏名に下線）すること。
3. 「概要」欄では、その作品の概要について、各作品毎に200字以内で記入するとともに、プロジェクトでの役割を明記すること。

(様式 7)

所見を伺える方の照会先

1. 氏名 職責等
 連絡先住所 電話, E-mail など

2. 氏名 職責等
 連絡先住所 電話, E-mail など

推 薦 状

被推薦者 所 属
氏 名

(本 文)

推薦者 所 属
職 責 氏 名 (署名)

〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

担当講座又は所属講座変更の手続きについて

昭和63年 5月12日

平成20年4月1日一部改正

教員の担当講座又は所属講座を変更する場合の手続きについて、ここに前例に従って、これを整理した。

- 1 教員の担当講座又は所属講座を変更する場合は、当該専攻長は、該当者の審査資料（教員の担当（所属）講座変更調書）を添付し、工学部長を経て第一教員選考委員会に資格審査を申請するものとする。
- 2 第一教員選考委員会の審査結果の工学研究科長への報告は、原則として口頭で行うこととし、必要な場合は文書をもって報告することとする。

補足説明

- 1 前例をみると、すべて第一教員選考委員会で審議されており、昭和52年5月16日第2回教授会記録によると、当時工業数学担当の講師の所属講座変更に関連して、特別なケースのため第一教員選考委員会を経ることなく、工学部長から教授会に提案された件について、「今後については必ず第一教員選考委員会を経ることを確認した。」ともあることから、今後も必ず第一教員選考委員会を経ることとする。
- 2 第一教員選考委員会の審査結果の工学部長への報告については、前例をみると、大部分の事案について、委員長から口頭で報告がされており、若干の例について資格審査結果報告書によって報告されたものがある。

従って、原則として口頭で報告することとし、必要な場合は資格審査報告書により報告することとする。

第一教員選考委員会の記録をみると、口頭で報告の場合は「審議の結果、〇〇教授の担当講座を変更することを全員異議なく了承。」ないしは「〇〇委員から説明があり、〇〇助教授の所属講座の異動を了承。」等とあり、文書で報告の場合は「助教授候補者として適当であると判定し、これを学部長に報告することとした。」又は「担当講座を変更することは、審議の結果適当であると判断し、これを学部長に報告することとした。なお、本委員会としては、改めて第二教員選考委員会の設置は必要なしと判断した。」等とされている。